令和３年度

神谷だより

＜１ 月号＞

令和４年１月１１日
北区立神谷小学校
校長　星野　典子

教育目標：すこやか・まなび・おもいやり

あけましておめでとうございます

校長　　星野　典子

２０２２年が始まりました。元日は穏やかな天気に恵まれて初日の出が見られたところも多かったようです。新型コロナウィルスの感染者がこれ以上増えないことを祈りつつ、今年こそは通常の学校生活が送れるよう願います。

さて、みなさんは、このお正月に「あけましておめでとうございます。」という言葉を何回くらい発したでしょうか。親戚や友人、知人など、今年初めて会う人には必ずといってよいほど、挨拶として言ったのではないでしょうか。新年の挨拶は「Happy New Year」などと世界でも言いますが、日常の暮らしを見ると、挨拶だけでない日本人の礼儀正しさがよく分かります。

礼儀とは、人を思い敬意を払う心と、常に相手を気遣う思いやりの心、そのために自分自身を慎む謙虚な心と言われます。日本で一番最初に礼儀作法について書かれたのは、聖徳太子の十七条の憲法だそうです。そしてそれをもとに朝廷や武家、貴族の間で催事や儀式の中で礼儀作法などの形が生まれました。その後、時代と共に様々な礼法や流派が発生しましたが、そのような歴史的な流れは知らなくても、私たちには自然と礼儀が身に付いています。

小学校学習指導要領 解説『特別の教科 道徳編』では、「礼儀は、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となって表れてこそ、そのよさが認められる。つまり、礼儀とは、心が礼の形になって表れることであり、礼儀正しい行為をすることによって、自分も相手も気持ちよく過ごせるようになる。」とあります。礼儀は、具体的には挨拶や言葉遣い、所作や動作などとして表現されますが、その根底にある「心」が何より大切です。

本校では、「語先後礼」を行っています。「挨拶言葉を先に言って、それからお辞儀をする」挨拶の仕方の一つです。 相手の目を見て「おはようございます。」や「ありがとうございました。」と言ってから、お辞儀をする「語先後礼」は、どこを見て挨拶をしているか分からないお辞儀よりも、相手に対して敬意の気持ちが伝わります。

１２月には代表委員や学級ごとによる校門での「あいさつ運動」を実施しました。日常交わす挨拶やお辞儀についても、相手に対する敬意を表すコミュニケーションの一つとして大切な関わりと捉え、また、その所作の意味を自分なりに考え、自分と共に相手を大切にしようとする態度の育成につながるよう、今後とも指導してまいります。

ジュニアランド

１２月１１日（土）にジュニアランドを開催しました。
ジュニアランドは「なかよし班」という縦割り班の活動の一環で、各班が来店したお客さんを楽しませるゲームを考えてお店を開き、互いにお店役とお客さん役を交代して楽しむ活動です。

この日に向けて、６年生を中心に各なかよし班は準備をすすめてきました。楽しく活動するためにルールを工夫したり、教室の配置を考えたりと、協力して自分たちでジュニアランドをつくりあげようとしている場面がたくさん見られました。

当日は前後半に別れて、１・６年、２・５年、３・４年のペアでそれぞれのお店を回りました。ボウリングやストラックアウトといった定番のお店をはじめ、確率ゲームやカーリングといった新しいお店も多く、お店をする側も回る側もとても楽しんで活動していました。

［ 特別活動主任　藤井隼人 ］

５年　社会科見学

１２月２１日（火）に社会科見学に行きました。羽生にある「武州中島紺屋」さんで藍染め体験を行い、午後からは「さいたま水族館」を見学しました。

藍染め体験ではハンカチを輪ゴムでしばり、藍の葉の液体が溜めてある中に入れて各自で模様をつけました。藍の葉の色とハンカチに付いた色の違いにとても驚いていました。

機械と手作業の違いや、職人さんの思いや願いについて話を聞き、伝統文化への考えを深めることができました。

［　５年担任　石井百合子　］